

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 5年 3月17日

事業所名 放課後等デイサービス れんぐ

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	75%	25%	0%	死角がないように注意している。 声掛け、職員の配置をしている。	
	2	職員の配置数は適切である	25%	25%	50%	声掛けや担当を決め、安全に過ごせるよう工夫している。 足りていないと思う。	指定基準は満たしていますが、個別支援を充実させていくためには職員の採用も考えていきたいです。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	0%	50%	50%	段差や階段でのケガ等の無いように配慮している。 階段、段差がありバリアフリーではないと思う。	バリアフリーではないですが、危険個所をチェックし、安全安心な環境作りを心がけています。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	100%	0%	0%	毎月の会議で話し合い、報告している。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	75%	25%	0%	アンケート結果の内容を活かし、避難訓練の広報を作成した。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	0%		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	25%	75%	0%		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	0%	Zoom等を利用して研修を取り入れている。 必要な内容の研修を企画し、実施している。	年間で計画を、支援、環境作り、モチベーションなど偏らないように作成し、実施していきます。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	75%	25%	0%	全職員で話し合い、聞き取りも行っている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	50%	50%	0%		アセスメント内容を見直し、より良いツールを完成させていきたいです。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	0%	月毎の活動を話し合い、利用児に合わせて組み立てている。	

適切な支援の提供	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	0%	各々がアイデアを出し合い、マンネリ化しないようにしている。新しい活動を取り入れるよう努力している。	制作、調理、運動、外出、バランス良く経験体験が出来るよう、季節も感じれる活動内容に作成しています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	50%	50%	0%	保護者からの要望を聞き、本人に合わせた内容で提供している。(宿題を取り組みの要望など)	平日では取組時間を考慮し設定できない課題も、長期休暇中に取り組むように調整しています。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	75%	25%	0%	利用児に合わせたレベル分けやグループ分けなどしている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	0%	毎日必ず行い、全職員が把握出来るようにしている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	25%	25%	50%	翌日に行っている。	送迎終了時間がまちまちになるため、翌日にヒヤリハット、褒めるべきこと、気付いたことなど報告しあい、検討が必要な内容は都度話し合っています。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	25%	75%	0%	必要事項は都度、記録を取っている	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	50%	50%	0%	モニタリング時期にケース会議を実施している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	50%	50%	0%	全員が熟読できていない状況。	基本活動：「自立支援と日常生活の充実のための活動」「創作活動」「地域交流の機械の提供」「余暇の提供」の複数組み合わせで支援をおこなっていますが、ガイドラインを読みきれていない職員もおおく、周知させていきたいと思いをします。
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	0%			
21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	75%	25%	0%	送迎時に申し送りで確認を取っている。		

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	25%	75%		看護師の配置も予定出来ておらず、体制が整う見込みがないです。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	0%	50%	50%		会議の実施まで至らない場合もありますが、終了時の報告などを持参下さり、情報の共有が出来る時もあります。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	25%	75%	0%		小学生を対象とした事業所のため、中高生の事業所へ移行する時に情報を
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	25%	75%	0%		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	25%	25%	50%	長期休暇時は公共施設などを利用し、機会を設けられるようにしている。	必要に応じて検討したいと思います。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	50%	25%	25%		放課後等デイサービス連絡会へ毎回参加しています。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	0%	帰りの申し送りや面談などで伝え、共有するようにしている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	25%	25%	50%		困り事への対応等は常にさせてもらってましたが、ペアレント・トレーニングの知識が薄いため、今後強化していこうと思います。
保護者への説	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	75%	25%	0%	行っているか分からない。	契約時、変更時に書面等で説明しています。職員の理解を促していきたいと思います。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	0%	保護者からの困り事や相談に対して事業所内で話し合っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	25%	75%	行っていない。	マスク着用の基準が緩和され、感染対策は引き続き実施しつつ、次年度は開催を視野に入れています。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	0%	管理者に報告し、全体で改善策を話し合い、周知している。	

明 責 任 等	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	0%	事業所内の様子など、広報で伝えている。	年4回、広報を発行している。 避難訓練実施のお知らせも配布しています。
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	0%		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	0%	家庭に合わせて対応するようにしている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	0%	100%		招待出来る行事の実施がありませんが、避難訓練等の実施を周知するなど地域の方への発信はしていきたいと思います。
非 常 時 等 の 対 応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	25%	75%	0%	玄関先に掲載している。 保護者に周知しているかどうか把握していない。	保護者への周知まで至っていませんでした。気軽に閲覧できる環境を作り、周知を促していきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	0%	利用児全員が経験できるように日程を調整している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	0%	オンラインでも行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	75%	0%	25%		やむを得ず行うことを想定し、必要な時には計画に記載し、記録を残し、対応していきたいと思います。 職員間での周知を徹底します。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	25%	50%	25%		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	0%	時間をしっかり確保し、話し合っている。	